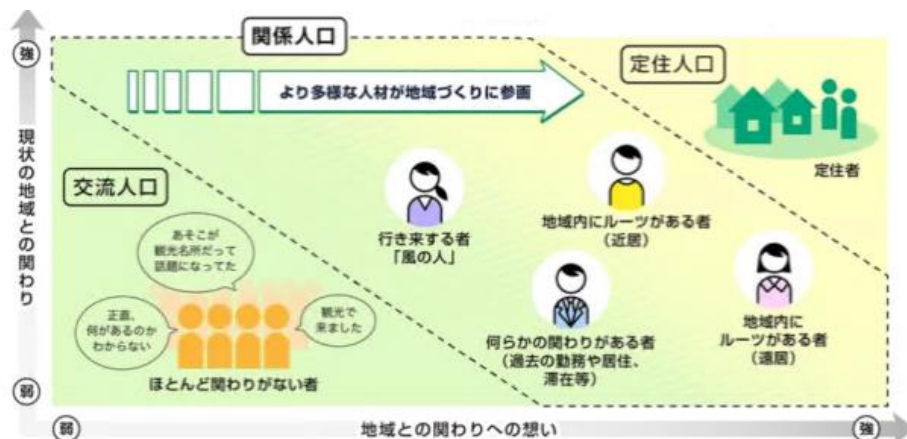


生駒市における関係人口の可能性と課題

1 関係人口とは何か



参照：総務省 (https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/kankeijinkou.html)

(1) 関係人口とは

移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々。地方圏は、人口減少・高齢化により地域づくりの担い手不足という課題に直面しているが、地域によっては若者を中心に変化を生み出す人材が入り始めており、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されている。

(2) 国の動向

- ・今年度から「ふるさと住民登録制度」が本格開始予定（R8.3に運用ガイドライン Ver.1.0を公表）
- ・「ふるさと住民登録制度」により、今後10年間で実人数1,000万人・延べ人数1億人の登録を目指す（地方創生2.0基本構想、令和7年6月13日閣議決定）
- ・制度の運用にあたり、自治体ごとに定義・関わり方を明確にすることが求められている

2 典型的な関係人口施策のモデル

(1) 関係人口の関わり方

①地域を訪問し、人・活動・場に直接関わる

例：地域活動、体験、交流、プロジェクト参加など

②地域を訪問せず、地域外から関わる

例：ふるさと納税、特産品購入、情報発信、オンライン参加など

(2) 既存施策の傾向

これまで各地で展開されてきた関係人口施策では、次のような資源や課題が入口となる事例が多い。

- ・観光資源・地域資源
- ・一次産業
- ・人口減少や担い手不足
- ・地域課題

本市にもこれらの資源や課題は存在するが、市全体の関係人口施策の主軸とするには限定的である。

3 生駒市で外部との関係を考える際の前提

(1) 現在の生駒において、外部の人が関わる入口はどこにあるか

観光や一次産業を主軸とした既存モデルとは異なるものの、市内には人・活動・場を起点とした実践が点在している。市外就業者が多く、住民自身の仕事や生活の関係が市外に存在しているが、外部の人が何らかの形で関わる余地をどこに見いだせるのか検討する必要がある。

(2) 既存の関係が属人的・分野限定的にとどまっている

外部との関係は存在するが、個人のつながりに依存していたり、特定分野ごとに完結していたりと、まち全体への波及が生まれていない。これらの関係を、どのように継続可能な仕組みやまち全体の動きにつなげられるかが課題である。

4 これからの生駒に必要な関係のあり方

(1) これまでの生駒市

生駒市は「大阪に近い・緑が豊か・子育て教育環境が整っている」といった住環境の価値により、住む場所として選ばれてきた。これにより子育て世帯が継続的に流入している。

一方で、大規模な住宅開発が進んだのは昭和 46 年（1971 年）の市制施行以降であり、宝山寺の門前町として多くの参詣者を迎え入れたり、生駒山上遊園地や日本最古のケーブルカーなどによって観光客が訪れたりしていた歴史、さらに古くは高山茶釜に代表される茶道具づくりの伝統、旧乙田村における人形浄瑠璃・芝居文化など、外部との関係性の中で文化や場を育んできた蓄積がある。

しかし、住宅都市としての性格が強まる中で、その外に開かれた性質は見えにくくなっている。現在は、子育て世帯として転入した世代の子どもたちが進学・就職を機に市外へ転出する構造が続いており、また住まいは市内にありながら、働く・学ぶ・楽しむ・関わるといった活動の多くが市外に広がりやすい状況がある。

(2) めざしたい方向

本市は第 6 次総合計画（令和元年度開始、現在は令和 6 年度を開始年度とする第 2 期基本計画に基づき取り組む）において、「自分らしく輝けるステージ・生駒」を将来都市像として掲げ、「住む」「働く」「楽しむ」の要素が融合し、多様な生き方・暮らし方が叶う豊かなまちへ転換することを目指している。

本市ではこれまでも、資料 3 の 5 (2) に記載のような事業を進めてきているが、これらの取組は主として市民を対象としており、地域外の人との関係をどのように位置づけるかについては十分に整理されていない。

(3) 今回検討したいこと

これからの生駒を考えるうえでは、住宅都市としての暮らしの豊かさは維持しつつ、将来都市像の実現のために外部との関係をどのように設計するかを検討したい。

現時点では、外部の人との関係づくりについて、その目的・対象・施策上の位置づけは未整理である。また、総合計画上にも関係人口の明確な位置づけはなく、今後どの施策体系と接続するかも含めて検討が必要な状況にある。

5 検討会での意見交換事項（案）

第1回では、関係人口施策の今後の方向性を検討するにあたり、住宅都市である生駒市において外部との関係を検討する意味を共有し、第2回フィールドワークで確認すべき視点を整理することを目的とする。

(1) 生駒において、外部の人が関わることの意味はどこにあるか

- ・「人手不足の解消」でも「観光振興」でもない文脈で、生駒固有の必然性をどう考えるか
- ・生駒市における関係人口という概念について

(2) 生駒において、外部の人が関わる余地はどこにあるか

- ・市内に点在する実践や人・活動・場を「関わりしろ」として捉えられるか
- ・過去・現在・未来に生駒と接点のある人を、どのように位置づけられるか
- ・市内の人・活動・場を豊かにすることと、外部との関係づくりは、どちらが先なのか。また、両者はどのような関係にあるのか
- ・行政が設計すべきものと、市民・民間に委ねるべきものの境界はどこにあるか

(3) 外部の人との関係を通じて、市民や地域にどのような変化が生まれうるか

- ・「外からいかに人を呼ぶか」ではなく、外部の人が関わることで生駒に関わる・住む人の意識や行動がどう変わり、何が生まれる可能性があるのか
- ・地域への見方や関わり方が変わり、新しい実践につながる可能性をどのように考えるか

6 今後の検討スケジュール

第1回（6月17日9:30~11:30、オンライン）／問いを立てる

現状の共有、すでにある動きの確認を行い、住宅都市である生駒市において関係人口を検討するうえでの問いを共有する。

第2回（7月30日10:00~16:00）／フィールドワーク

市内の実践や場を観察し、生駒市にすでにある関係性の芽、地域資源、課題を把握する。短時間ではあるが、フィールドワーク後に、第3回に向けた論点整理の時間を設ける。

第3回（8月4日10:00~12:00、オンライン）／方向性の検討

フィールドワークで得られた気づきや論点を整理し、生駒市における関係人口の定義、対象、施策としての位置づけを絞り込む。あわせて、第4回に向けて、小規模試行として検討すべきテーマや方向性を確認する。

第4回（10月）／小規模試行の設計

第3回までの議論を踏まえ、次年度予算に向けた小規模試行プランを検討する。実施目的、対象、実施体制、必要な資源、期待される効果等を整理する。